

事務事業 No./名称	■サービス部門 健福-29 障害者社会参加促進事業 □支援部門						
主管課	障害者福祉課	関連課					
分野名	健康福祉						
目標 (目標値)	福祉運営事業の充実を図る。						
人口等のデータ	データ区分	23年度	22年度	21年度	備考		
	人口	177,204人	177,161人	176,669人	・各年4月1日 (住民基本台帳)		
	世帯数	79,217世帯	78,812世帯	78,131世帯			
事業の対象者数	6,741人	6,301人	6,275人				
運営資源状況	決算値(千円)	39,523	37,213	36,252			
	(国・県)	2,212	2,209	2,161			
	(負担金等)	0	0	0			
	(一般財源)	37,311	35,004	34,091			
	人員配置数	1.2人	1.2人	1.0人			
	人件費(千円)	11,130	10,952	9,764			
	協働のパートナー	鎌倉市手話・要約筆記講習会実行委員会	鎌倉市手話・要約筆記講習会実行委員会	鎌倉市手話・要約筆記講習会実行委員会			
事務事業運営経費	総事業費(千円)	50,653	48,165	46,016			
	市民1人当りの経費(円)	286	272	260			
	対象者1人当りの経費(円)	7,514	7,644	7,333			
ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名⇒						
指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)
タクシー券・ガソリン券助成事業	○	目標値	33,746,000	31,900,000	31,900,000	34,900,000	36,300,000
		実績値	30,763,000	31,857,000	33,535,000		

評価のポイント

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

小事業名	H23決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止	
障害者社会参加促進事業	39,523千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	⇒	■A □B □C □D □E		
	事業の概要	聴覚障害者への手話通訳者の派遣事業や障害者が自ら運転する自動車の改造費の助成、自動車運転訓練費の助成支援及び在宅の重度障害者への福祉タクシー利用券・福祉自動車燃料費助成券等を交付し、利用料等の助成を実施した。				
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒	□A □B □C □D □E		
	事業の概要					
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒	□A □B □C □D □E		
	事業の概要					
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒	□A □B □C □D □E		
	事業の概要					

事務事業の課題及び取組状況

H23年度の課題	新鎌倉行政経営戦略プランアクションプログラムにおける、福祉タクシー利用券助成等事業を含めた「障害者在宅福祉給付サービス事業の提供体制の整備」での見直し、手話講習会の有料化について検討を行なう。
課題解決のための取組	福祉タクシー利用券助成事業を含めた「在宅福祉給付サービス事業」の提供体制の整備や手話講習会の有料化について障害者団体などから意見を聴取し、制度のあり方等について検討を行った。
未解決の課題	提供体制を整備すべき在宅福祉サービス事業の研究、検討を行うとともに、手く。しして話講習会の開催趣旨等を整理して講習会の有料化について検討していく。

中事業の評価と今後の方向性

中事業の評価	適切=○ 要改善=△ (評価の視点を参照)	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	今後の方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止	※□事業完了
				福祉タクシー利用助成など社会参加事業、手話通訳・要約筆記などコミュニケーション支援事業など、障害者のニーズに対応した事業を実施し、障害者の社会参加の促進を図っていく。	課長等名 課長(代理) 茶木 和夫

